

見学お役立ちシート

名称	鞠智城跡（きくちじょうあと）
住所	〒861-0425 熊本県山鹿市菊鹿町米原
電話番号	【問い合わせ・申し込みは温故創生館 0968-48-3178】 9:30～17:15（年末年始・月曜など休館）
地図URL	https://goo.gl/maps/otaB7dpTBzPYHqtO9 
営業時間 見学所要時間 （目安）	<p>所要時間：鞠智城跡と温故創生館内見学含め 60分から90分</p> <p>鞠智城散策ルート（40分～90分）</p> <p>温故創生館内見学のみ（約30分間）</p> <p>（見学予定日の2週間前までに要予約・無料。ガイド時間は1時間以上が必要です。）</p> <p>（芝生の広場では、お弁当を食べることもできます。）</p>
料金	無料
駐車場・トイレ	駐車場あり、トイレあり
時代	7世紀後半（約1300年前）
参考URL	https://kofunkan.pref.kumamoto.jp/kikuchijo/kikuchijo/index.html
出典	<p>『山鹿市の指定文化財』22頁</p> <p>https://bunka.nii.ac.jp/</p> <p>『山鹿のてびき』49頁</p>
	<ul style="list-style-type: none"> ・国指定史跡（平成16年指定） ・有明海に注ぐ菊池川の河口から北東に約2.7km内陸に入った菊池川中流域、鹿本郡菊鹿町米原にある標高160m前後の丘陵地に位置し、北は福岡県境に連なる山々を望み、南は菊池川により形成された平野が広がっています。 ・天智二（六六三）年、朝鮮半島における白村江の戦いに敗れた大和朝廷が唐・新羅と対峙しながら、国を防衛するために築いた朝鮮式山城です。 ・東アジア情勢が緊迫の度を増した7世紀中葉以降に、大宰府防衛のため大和朝廷によって築かれた朝鮮式山城のひとつと考えられ、『続日本紀』文武天皇2年（698）の「大宰府をして、大野、基肄、鞠智の三城を繕治せしむ」とある修繕記事を初見とし、降って『日本文徳天皇実録』天安2年（858）に「菊池城院兵庫の鼓自ら鳴る」「菊池城の不動倉十一宇火」、『日本三代実録』元慶3年（879）に「菊池城院の兵庫の戸自ら鳴る」の怪異記事及び火災記事が国史に散見されます。 ・城跡は菊鹿町米原の長者原地区を中心とする総延長約3.5kmの土塁線や急峻な崖線で囲まれた、南北約1.2km、東西約1km、面積約64haの規模を有する。昭和42年度から始められた発掘調査によって、現在までに掘立柱建物・礎石建物、鼓楼ともいわれている八角形建物跡2棟、貯水池跡、貯木場跡等の遺構のほか、南側の崖面に3箇所（深迫・堀切・池の尾）で門跡が確認されています。 ・鞠智城は、熊本県によって昭和42年から現在にわたって発掘調査が行われてきており、数多くの貴重な遺構や出土品が見つかりました。 ・主な出土品として、百濟様式の軒丸瓦、焼けて炭化した大量の靱、木製の鋤、鍬の柄、斧の柄などがあり、特に貯水池跡からは木簡や百濟系銅造菩薩立像など貴重な遺物が発見されました。